

独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構（以下「機構」という。）が実施する在職者訓練の訓練コースは、次の（１）から（５）までに掲げた要件をすべて満たすものとします。

（１）人材育成ニーズを踏まえた訓練

次のイ又は口のいずれかに該当するものであること。

- イ 現に産業界又は地域において相当程度認められる人材育成ニーズに対応したものであること。
- ロ 近い将来、人材育成ニーズの発生、増加が見込まれる分野に関するものであること。

（２）中小企業等を主な対象とした訓練

中小企業等を主な対象とし、中小企業等の人材育成ニーズに即したものであること。

（３）ものづくり分野を中心とした訓練

直接生産型（設計・開発、加工・組立、工事・施工、検査）に関するもの又は直接生産型に間接支援型（生産管理、品質管理、設備保全、教育訓練、安全衛生等）の訓練要素を含めたものであること。

また、ものづくり分野におけるデジタル技術の進展に伴う技術及びその基盤となる技術並びに脱炭素化等に資する技術も、上記直接生産型又は間接支援型の訓練要素として含まれるものであること。

なお、全ての訓練においては、安全の要素が含まれていること。

（４）真に高度な訓練

次のイからハの全てに該当するものであること。

イ 養成する能力

養成する能力とは、中小企業等が競争力を強化するために必要な生産性や技術力の維持・向上に資する、次の（イ）から（ハ）のいずれかの能力の付与を目的としたものであること。

（イ）現場力の強化及び技能の継承ができる能力

実践的な経験に裏打ちされた技術・技能、問題解決能力等を高めることができ、技能の継承ができる能力

（ロ）生産性の向上を実現できる能力

ものづくりの生産手段や工程（プロセス）の改善や改良ができる能力

（ハ）新たな品質の創造又は製品を生み出すことができる能力

企業が培ってきた専門的なノウハウや技能・技術を基に、他の専門分野を組み合わせ、品質の向上等による付加価値の高い製品や、新たな製品を生み出すことができる能力

ロ 訓練コースの専門知識及び技能・技術に関するレベル

訓練コースは、別表「職業能力開発に関するレベル表示」の「訓練領域」及び「仕上がり像に関する目標」が「レベル区分」欄の「複合・統合」又は「３」に該当するものであること。

ハ 訓練の対象者及び訓練の仕上がり像

訓練の対象者は、企業の生産活動等における技能・技術者等であって、指導的・中核的立場にある者又はその候補者であること。また、訓練の仕上がり像は、企業の生産活動等において牽引的な役割を担う人材の養成を図るものであること。

（５）地方公共団体との役割分担及び民間教育訓練機関等との競合を踏まえた訓練

民間教育訓練機関等の多種多様な訓練コースの実施状況や、昨今の地方公共団体における職業訓練の取組状況を把握し、地方公共団体、民間教育訓練機関等において実施していないものであること。

職業能力開発に関するレベル表示

（専門知識及び技能・技術に関するレベル表示）

レベル区分 ※注1	訓練領域 ※注2	仕上がり像に関する目標 ※注3
複合・統合	・新技術・基準・制度や他の専門分野との複合・統合により、製品・サービスの高付加価値化や新分野展開を担える専門知識及び技能・技術	・他の専門分野を含む複合・横断的な領域における応用的な企画・調査分析、研究開発、統合的経営戦略に関する職務が遂行できる。
3	・専門分野の高度化及び他の分野との複合化に関する専門知識及び技能・技術	・高度な専門知識及び技能・技術に基づき、自らの問題解決能力や創造力を活かして、職務の多様化・高度化に対応したサービス・品質の改善や業務の効率化、システム化に関する職務が遂行できる。
2	・専門分野の向上や拡大に関する専門知識及び技能・技術	・当該専門分野の職務に関して、専門知識及び技能・技術に基づき、自らの判断で職務を遂行でき、業務の改善・提案ができる。
1	・一般的に普及している基礎的・基本的な専門知識及び技能・技術	・当該専門分野の職務に関して、基礎的な専門知識及び技能・技術に基づき、職務が遂行できる。

注1：レベル区分とは、職務遂行上必要とされる専門知識及び技能・技術について、その深さの度合い、習得の難しさの度合い、普及活用の度合いに応じて、4つの区分に分けたもの。

なお、「レベル区分」欄の「1～3」は、専門知識及び技能・技術のレベルの高さを示したものであり、同欄の「複合・統合」は同区分の「3」に該当する専門知識及び技能・技術を複合・統合したものであること。

注2：訓練領域とは、レベル区分の各レベルの専門知識及び技能・技術の範囲を示したものであること。

注3：仕上がり像に関する目標とは、レベル区分の各レベルに該当する訓練コースを受講することにより、どのような職務が遂行できるかを示したものであること。

## 解説

### 1. レベル区分ごとの想定する受講対象者の技能及び知識のレベル

レベル区分「複合・統合」については、

生産活動において、新分野への展開や付加価値の高い製品の製作に関する職務ができることを目指す者を対象としています。例えばプロジェクトリーダー、開発担当、試作担当等を目指す者です。

なお、技能及び知識のレベルを例えるならば、中央職業能力開発協会で実施している技能検定特級程度が考えられます。レベル区分「3」については、

生産活動において、リーダー的、牽引的、指導的な職務ができることを目指す者を対象としています。例えば、リーダー、主任、班長、指導者、管理者等を目指す者です。

なお、技能及び知識のレベルを例えるならば、中央職業能力開発協会で実施している技能検定1級以上が考えられます。レベル区分「2」については、

生産活動において、自らの判断で職務が遂行できる者であり、仕事や職務の範囲を拡大することを目指す者を対象としています。

なお、技能及び知識のレベルを例えるならば、中央職業能力開発協会で実施している技能検定1級未満が考えられます。

レベル区分「1」については、

入職後間もない者であり、上司や先輩等の指導・監督の下で、職務が遂行できることを目指す者を対象としています。

なお、技能及び知識のレベルを例えるならば、中央職業能力開発協会で実施している技能検定1級未満が考えられます。

### 2. 参考例

参考として、レベル区分ごとの訓練コース設定例を以下に示します。

レベル区分	機械加工（NC加工）分野	制御分野	設備分野
複合・統合	多軸制御プログラムを活用した複雑な曲面加工、加工材料の特性に応じた高速加工や微細加工などの応用的な機械加工に関するコース。	情報通信技術やロボット技術を組み合わせた製造ラインの制御ネットワークの構築や制御プログラムの開発及び保守・管理に関するコース。	省エネルギー対策や環境等を考慮したビル設備管理システムの運用及び保守管理に関するコース。

レベル区分	機械加工（NC加工）分野	制御分野	設備分野
3	CAD/CAMシステムを活用したプログラミングによる、高精度加工（金型の製作などの少量多品種加工）に関するコース。	多数の制御装置の制御方法や制御プログラムを組合せ、効率的な製造ラインの構築や制御プログラムの作成、保守・管理及びトラブル対策に関するコース。	ビルなどの集中管理された空調設備や給排水衛生設備などの設計・施工及び保守・管理に関するコース。
2	設計図面に従った加工のプログラミングや工具補正などを理解し、様々な加工作業（汎用部品等の量産加工）に関するコース。	制御装置の制御方法や制御回路等を理解し、制御装置の制御プログラム作成及び点検・調整作業に関するコース。	木造住宅などの空調設備や給排水衛生設備の設計を理解し、設計図に応じた施工及び点検・修理に関するコース。
1	NC工作機械の基礎知識を理解し、マニュアルに従った基本操作及び基本的な加工作業に関するコース。	制御装置の基礎知識を理解し、マニュアルに従った基本操作及びプログラミングに関するコース。	空調設備、給排水衛生設備等の基礎知識を理解し、工事・施工の基本作業に関するコース。